電子データで編集する際は、記入欄を広げていただいて構いません。

第３号様式（第７条関係）

スタート支援

記入例

事 業 計 画 書

３ページ以内でご記入ください

実施する事業について ※事業名、事業内容、対象者、実施日程・回数、参加者数、場所等を記入してください。 主な選考の視点 「公益性」 「事業実現性」 「自立性」	**事業名**：「シニアのためのスマートフォン安心サポート事業」 市内在住のおおむね 65 歳以上の高齢者を対象に、スマートフォンの基本操作を学ぶ講習会と、日常生活での疑問や困りごとを解消する個別相談会を開催します。 講習会では、スマートフォンの操作に不慣れな方でも安心して参加できるよう、初心者向けの内容を中心に、以下のテーマを取り上げます。 ・基本操作編：電話のかけ方、文字入力、写真撮影、メールの送受信など ・コミュニケーション編：LINE を使った家族や友人との連絡方法、写真の共有など ・生活便利編：インターネット検索、地図アプリ、公共交通機関の時刻表の調べ方など ・防災・安全編：防災情報の確認方法、緊急時の連絡方法、詐欺メールへの対処方法など 講習会は各回 15 人程度の少人数制とし、講師による説明に加え、地域のボランティアが参加者の操作を個別にサポートします。 また、月 1 回の個別相談会では、講習会で学んだ内容の復習や、スマートフォンを使用する中で生じた疑問について、一人ひとりの状況に合わせて対応します。 スマートフォンは原則として参加者自身の端末を使用しますが、端末を持っていない方には、協力団体から無償で借用したスマートフォン 3 台を貸し出し、基本操作を体験できるようにします。 【実施概要】 実施期間：4 月～3 月 実施場所：市内の公共施設（Wi-Fi 設備のある会議室） 実施回数：講習会（月 1 回・全 9 回）、個別相談会（月 1 回・全 9 回） 対象者：市内在住のおおむね 65 歳以上の高齢者 参加予定人数：講習会各回 15 人、個別相談会各回 10 人（延べ 225 人） 参加費：無料 【実施スケジュール】 4 月～5 月： 講習内容の検討、協力団体との調整、広報資料の作成、参加者募集 6 月～8 月： 基本操作編の講習会、個別相談会 9 月～11 月： コミュニケーション編・生活便利編の講習会、個別相談会 12 月～2 月： 防災・安全編の講習会、個別相談会、参加者アンケー 誰を対象にどこで、何回実施する いつ実施する	**【記入のヒント】** ●事業名は何を目的とした事業かが伝わる名称にしてください。 ●スタート支援を受けようとする団体は、この事業を通じて、活動の進め方や役割分担、仲間・協力者、費用の確保などをどのように整え、活動を軌道に乗せていくのか、あわせて記入してください。 ・誰を対象に、いつ、どこで、何回実施する？ ・参加予定人数は？ ・初めての人でも参加しやすい内容？ ・これまでの活動の何を継続し、新しく何を加える

	トの実施 3月： アンケートの集計、事業の振り返り、実施結果の取りまとめ	
事業の背景について 地域の現状 主な選考の視点「公益性」	行政手続や各種サービスのオンライン化が進む一方、操作に不慣れな高齢者は、情報収集や家族との連絡に不便を感じることがあります。当団体にも「教えてくれる人が身近にいない」「家族には何度も聞きづらい」との声が寄せられています。高齢者がスマートフォンを安心して利用できるよう、地域で気軽に学び、相談できる機会が必要だと考えました。	**【記入のヒント】** 事業を実施しようと考えたきっかけや経緯、地域の現状や課題について、具体的に記入してください。
事業の目的や効果について どのような状態を目指す どのような変化 つながり 主な選考の視点「公益性」	**【事業の目的】** 高齢者がスマートフォンの基本操作や生活に役立つ機能を身につけ、安心して情報収集や連絡ができるようになることを目的とします。習熟度に応じた講習会と相談会を通じて不安を軽減し、地域活動への参加や世代間交流にもつなげます。 **【どのように「げんき」を届けたいか】** スマートフォンの操作を身につけることで、参加者が「自分にもできた」という達成感や自信を持ち、新しいことに挑戦する意欲を高めてほしいと考えています。また、家族や友人と気軽に連絡を取れるようになったり、地域のイベントや活動の情報を自分で調べられるようになったりすることで、日常生活の楽しみや外出の機会が増え、積極的に地域と関わるきっかけをつくりたいと考えています。 さらに、講習会や相談会を通じて、参加者同士や地域のボランティアとの交流が生まれ、困ったときに気軽に相談したり、互いに教え合ったりできる関係を育んでいきたいと考えています。こうした一人ひとりの自信や行動の変化が、人と人とのつながりを広げ、地域の交流や活力につながるとともに、地域で生まれたつながりが再び高齢者の安心感や生きがいにつながるような、前向きな変化の循環を生み出したいと考えています。 **【「げんき」をどのように確かめるか】** 講習会の初回参加時と参加後にアンケートを実施し、スマートフォンの操作に対する不安や、自分で操作できる項目がどのように変化したかを確認します。具体的には、「スマートフォンを安心して使えるようになったか」「家族や友人との連絡が取りやすくなったか」「自分で地域の情報を調べられるようになったか」などの項目を設け、参加前後の変化を把握します。 また、講習会や個別相談会の参加人数、継続参加者数を記録するとともに、参加者への聞き取りを通じて、学んだことを日常生活で活用できた事例や、地域活動への参加につながった事例などを収集します。さらに、参加者同士やボランティアとの交流の様子を記録し、事業を通じて新たな人とのつながりや、互いに支え合う関係が生まれたかを確認します。これらのアンケート結果や活動記録をもとに、参加者一人ひとりの意識や行動の変化だけでなく、その変化が地域の交流やつながりにどのように広がったかを振り返り、事業	**【記入のヒント】** 【事業の目的】 →事業の背景で記入した地域の課題や現状を踏まえ、この事業を通じて何を実現したいのか、どのような状態を目指すのかを具体的に記入してください。 【どのように「げんき」を届けたいか】 →この事業を通じて、参加者や地域に、どのような変化やつながりを生み出したいか記入してください。 ・これまで参加していなかった人に、どんな一歩を踏み出してほしい？ ・気持ちにどんな変化があるとよい？ ・活動後に、どんな行動を始めてほしい？ ・参加者同士にどんな関わりが生まれる？ 【「げんき」をどのように確かめるか】 （確認する方法の一例） ・アンケートをとる　・声で確認する（参加者の感想、インタビューなど）・行動で確認する（継続参加が増える、参加者が運営側にまわるなど）・関係の変化で確認する（参加者同士や他団体との交流が生まれたなど）・活動中の様子で確認する（子どもが自分から

	の効果を確認します。 **「げんき」とは** **人からまちへ、まちから人へと広がる前向きな気持ちの変化・行動を「げんき」と表現しています。**	動くようになったなど）・数字で確認する（参加人数、協力者数など）・記録で確認する（活動日誌、写真、成果物など）
事業の広報について	（使用予定の媒体にチェック） ■チラシ・ポスター　□パンフレットなどの刊行物 □ホームページ　□Facebook　□X（旧 Twitter） □Instagram □その他 SNS（　　） ■市の広報紙　□市の広報掲示板　■口頭にて伝達 □その他（　　）	
今後の展望について ※団体としての今後の展望をお書きください。 **主な選考の視点** **「発展性」** **「自立性」**	高齢者のデジタル活用を支援する団体として、会員やボランティアを増やし、活動地域を広げていきます。自治会、福祉関係団体、教育機関との連携を深め、世代を超えて支え合えるネットワークを目指します。将来は NPO 法人化も視野に入れ、財源の確保、人材育成、運営体制の強化に取り組み、地域のデジタル格差の解消に継続的に貢献します。	**【記入のヒント】** 今後、団体としてどのように成長・発展していきたいか、将来の目標や目指す姿を具体的に記入してください。
事業の実施体制について **主な選考の視点** **「事業実現性」**	本事業は、団体の会員 8 人を中心に、地域のボランティア 4 人の協力を得て実施します。 代表者 1 人が事業全体の統括や関係団体との連絡調整を行い、会員 2 人が講習内容の企画及び講師を担当します。また、会員 3 人が参加者の募集、受付、広報を担当し、会員 2 人が会計管理やアンケートの集計を行います。 講習会や個別相談会では、地域のボランティア 4 人が参加者の操作を支援します。貸出用端末については、協力団体から無償で借用し、担当会員が管理します。 また、参加者の個人情報やパスワードの取り扱いに十分注意し、講習会では必要に応じて練習用の画面や資料を使用します。 定期的に運営会議を開催し、参加者の意見やアンケート結果を共有することで、講習内容や運営方法の改善を図ります。	**【記入のヒント】** 会員内でどのような役割分担をしながら事業を進めますか。総括、会計、広報、庶務（資料作成や会場手配等）、外部との連絡調整など、事業に必要な役割とその従事人数を教えてください。 また、協力者や関係団体などがあれば併せて記入してください。 ステップアップ支援申請団体は記入必須 （スタート支援申請団体は任意）